

## 2. 出産・新生児ケアの臨床能力強化

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

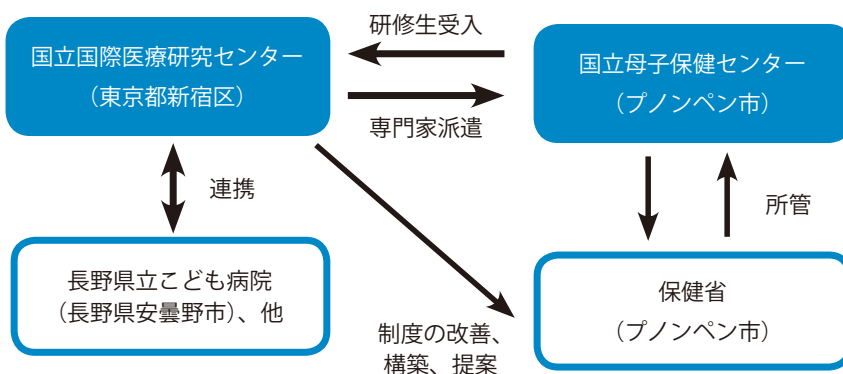
国立国際医療研究センター(NCGM)と2012年に技術協力協定を締結した「カンボジア国立母子保健センター」は、同国におけるトップリファラルの産科病院（年間分娩数約7000例）、かつ研修・行政の中核機関である。NCGMは過去20年以上同センターを支援してきた。

### 【活動内容】

NCGM国際医療協力局がNCGMセンター病院の小児科・産婦人科と連携して、カンボジア国立母子保健センターの助産および新生児科への技術支援を行ってきた。本事業ではこれまでの成果に基づきより大きい効果を期待してNCGMスタッフ他の同センターへの派遣と本邦研修を行う。

### 【期待される成果や波及効果等】

国立母子保健センターにおける助産と新生児医療・ケアの診療能力が向上する。助産および新生児医療・ケアに関して、我が国の経験に基づく機器・薬剤などの適正使用への波及効果が期待される。



### <研修実施結果>

9月および11月 研修生

(医師・看護師) 受入

(医師計2名、看護師計2名)

- ・日本の新生児医療ケアに関する現場研修（NCGM, 長野こども病院）、
- ・国際保健医療学会での研究発表

8月および1月 専門家派遣

(医師計4名、看護師計3名)

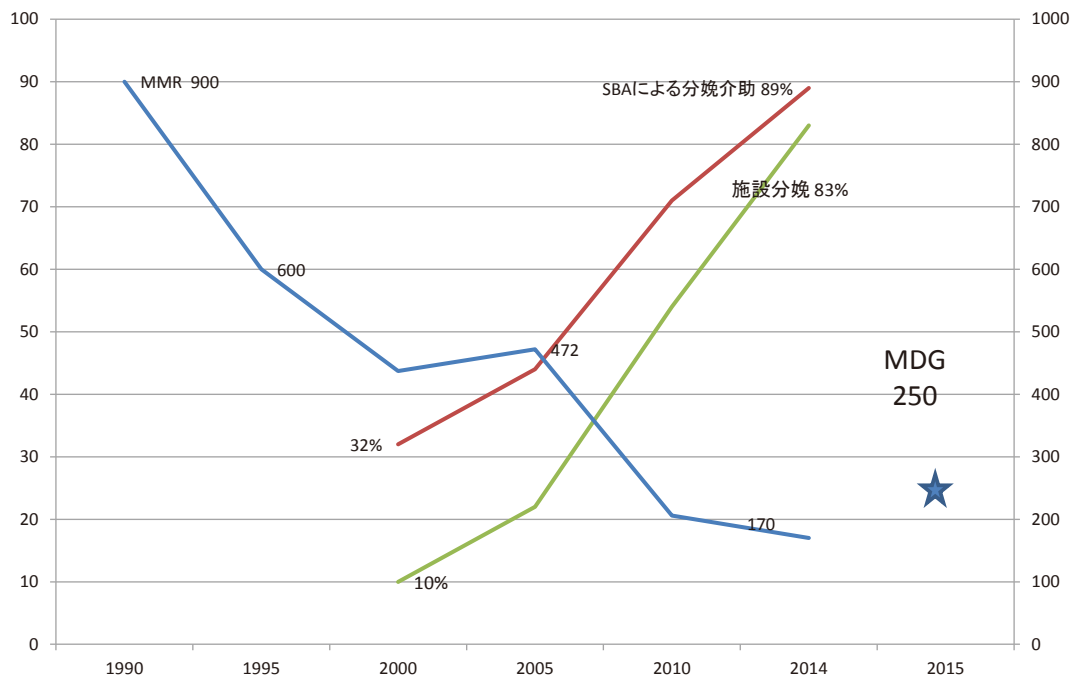
- ・新生児医療ケアに関する現地指導
- ・新生児医療ケアに関する特別講義（オープンセミナー）

12-2月 専門家派遣

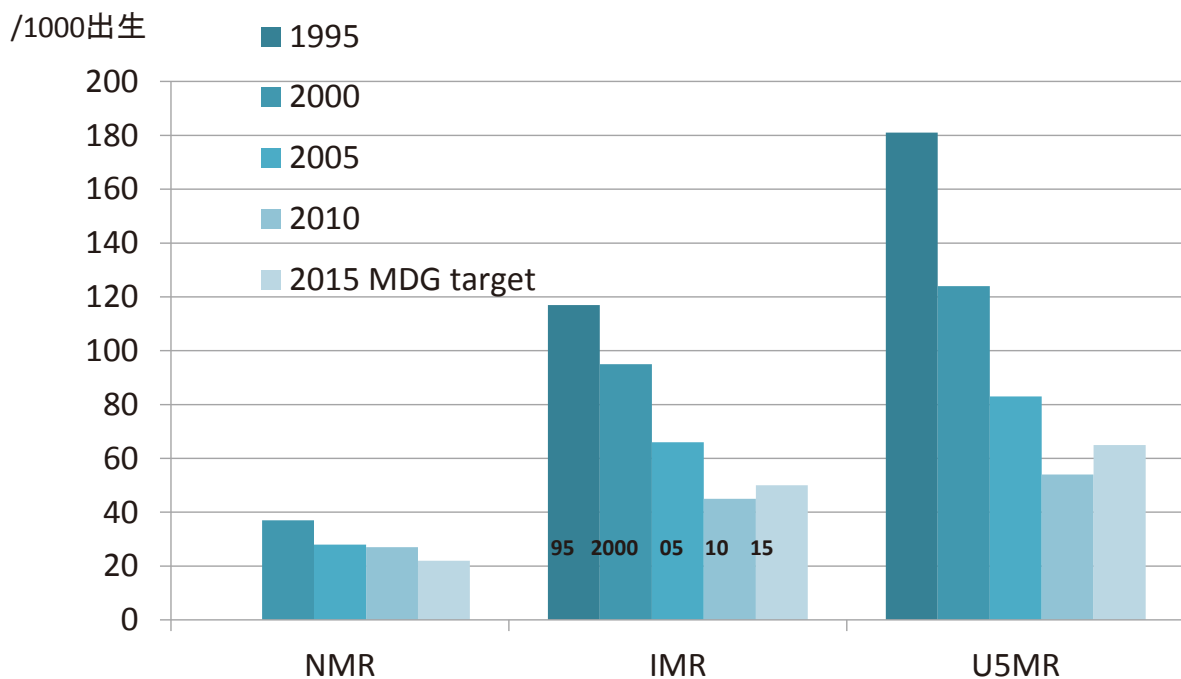
(医師2回、助産師3回)

- ・助産に関するセミナー開催

## 妊産婦死亡率、施設分娩率、有資格者による介助分娩率の推移



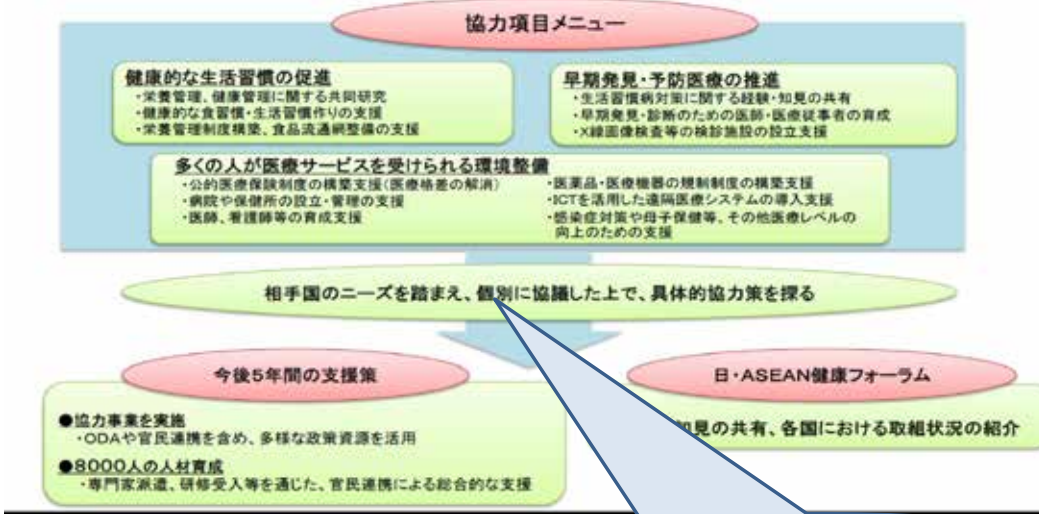
## 新生児死亡率・乳児死亡率・5歳未満児死亡率の推移 カンボジア、2000-2010



日・ASEAN健康イニシアチブ

資料2

- 我が国の経験・知見を動員して、「健康寿命先進地域実現」に向けたASEANの努力を支援。
- 保健・医療分野において5年間で8000人の人材育成。
- 『日・ASEAN健康フォーラム』を開催し、日・ASEANの対話を推進。



・新生児科医師・看護師の育成  
 ・助産師卒後研修カリキュラム(改訂)の作成

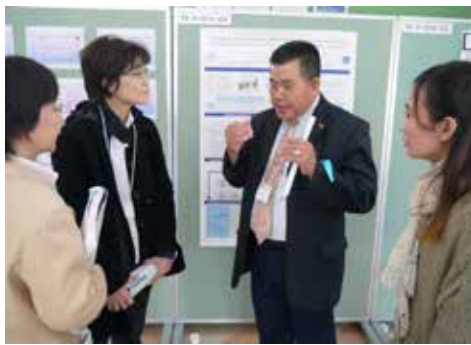
活動計画と達成状況

活動	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	実施状況	指標・達成度
1) 新生児ケアに関する本邦研修	計画	↔				↔		カンボジア人研修生2名(医師・看護師各1名)×2回 =4名、2週間×2回 =計4週間	年間4名が日本で研修する
	実施	↔				↔		カンボジア人研修生2名(医師・看護師各1名)、2週間 ・NGCMと長野県立こども病院新生児科にて研修	達成
2) 新生児ケアに関する本邦研修後の現地指導およびフォローアップ	計画	↔			↔			・日本人専門家2名×2回 =計4名 ・2週間×2回 =計4週間	年間4名日本人専門家派遣
	実施	↔			↔	↔		・日本人専門家2名、計4.5週間 ・2名1週間追加派遣(長野県立こども病院)	日本人専門家計7名派遣 →達成
3) 助産ケアに関する指導教材・実習チェックリスト作成の指導およびモニタリング	計画				↔	↔		・助産師卒後教育指導教材を策定(12月) ・策定された指導教材を使ってプノンペン市の保健所 助産師20名を対象にパイロット研修1ヶ月実施(12~1月)。 ・日本人専門家3名派遣	・助産師を対象とした卒後教育指導教材が策定される。 ・その教材を使ってパイロット研修を実施、必要な改訂を行い完成させる。
	実施				↔	↔	↔	・日本人計6名 ・パイロット研修実施(研修生20名)	達成



新生児：NCGMでの研修修了式

国際保健医療学会でのポスター発表



長野県立こども病院にて

カンボジアでの技術指導の様子



助産カリキュラム作成のためのワークショップ

プノンペンの保健センターの助産師を対象にしたパイロット研修



## 次年度への課題

- 「出産」
  - 保健省予算を確保し、完成したカリキュラムを用いて自律的に卒後研修を実施していくことが望まれる。
  - 卒後研修と基礎教育の内容を整合させることが望まれ、今後助産教育の内容に関する支援についても検討する必要がある。
- 「新生児」
  - 日本国内の主要新生児科と協力した本邦研修・専門家派遣により、活動効果の促進とネットワーク形成が期待できる。